

令和元年度中野市長例記者会見 顛末

- 期日 令和元年5月28日(火)
- 時間 午後4時～4時32分
- 会場 市役所5階 52・53号会議室
- 出席社 5社(テレビ北信、朝日新聞、新建新聞、北信ローカル、信濃毎日新聞)

質疑について、以下のとおり

<質疑応答>

【新建新聞 記者】

- ・豊田小学校の整備事業について、2020年着工の予定が前倒しになったということだが、竣工や開校などの時期は変わらないか。

【市長】

- ・工事を早めて計画を立てて進行する。竣工は当初の計画と変わらない。

【新建新聞 記者】

- ・開校時期はいつか。

【教育次長】

- ・豊田小学校開校は令和3年の4月を予定している。

【朝日新聞 記者】

- ・市長から、バラまつりの見どころなどPRしてもらってよいか。

【市長】

- ・バラ公園の素晴らしさは、まずはつるバラ。満開になると、周りを囲うように、バラのウォールが出来上がる様が圧巻である。その他に、公園の中を散策していただくと、例えばイギリス王室の「ロイヤルウィリアム」など、王室にちなんだ名前が付いたバラなどがたくさんある。それともうひとつは、中野市ゆかりの方が記念植樹をされたバラがある。先年、お亡くなりになられた日野原重明先生の「スカーレットヒノハラ」という深紅の

バラ、これは遅咲きであり、ぜひ皆さんにご覧になっていただきたいと思っている。850種3,000株のバラを、ぜひお楽しみいただきたい。
もうひとつ、公園にはバラ以外にも多年草が多く植栽されており、中野市を代表する花卉であるシャクヤクも咲いている。そういった花々も楽しんでいただければと思う。

【朝日新聞 記者】

- ・今年の見ごろはいつになりそうか。

【市長】

・感触では、6月8日頃か。その日はローズフェスタ合唱団の歌の披露があるが、宣伝をさせていただくと、私もそこで歌うことになっている。今年も素晴らしい祭典になろうかと思うので、皆様にもぜひPRをお願いしたい。

【信濃毎日新聞 記者】

- ・今年度は国の地方創生の第一期最終年度という位置づけになるが、中野市にとっての地方創生であるとか、近年の地方分権であるとか、この5年間でどういった手応えを感じたかをお聞かせ願いたい。

【市長】

- ・地方創生はPDCAで回すものであり、きちっと反省して次につなげるという連環がされていたが、そういった文化が浸透してきたのではないかと思う。一方で、地方創生とは言いながら「量をこなす」という形がある。どういった政策を地方自治体が打つのかに関しては、自治体の個性というものがあるので、寄り添った政策展開にしていただければとも思う。例えばひとつのプロジェクトでも短期間に立ち上げてプロジェクト化していくこともできるし、例えば1～2年の仕込みをして長期的に取り組むといったような課題もある。こういったものに関しては5年というタームで良いのかどうか、ということも十分考えていく必要がある。

【信濃毎日新聞 記者】

- ・他の自治体でも、総務省の審査の段階で引っかからなければ予算が出ないということで、文句が出ているという声も聞こえてきている。もう少し、自治体の現場の感覚に沿って、期間に融通を利かすような形が理想ということか。

【市長】

- ・今後そうなってほしいし、地方創生に関しては、継続的に取り組んでもらいたいとは思っている。実効性のある、しっかりした考えのもとにあるものに

は、耳を傾けていただきたいという思いはある。

【テレビ北信 記者】

- ・先日、水防訓練が行われた。これまでと違い、大規模な市内全体を対象とした訓練が行われ、市長も実際に視察されたと思うが、どういった感想を持ったかお聞かせ願いたい。

【市長】

- ・これまでの水防訓練は、予定されたメニューで一か所に集まり実施していた。今回は予めシナリオを周知せず、いきなりどこどこで氾濫が発生したとか、水位が上がってきているという想定の中で、消防団が待機しているところから出発し、現地に到達してそこで準備を始める。突発的な災害については非常に有効な訓練だと思う。消防団員、消防隊員の皆さんにおかれてもいろいろな反省点が見えてきた。これから、こういった実践に即した訓練は今後大事になってくると感じている。

それから、軽車両を各地区に配備した。細い道を駆けつけることができるため、これも非常に良かったと思う。